

檜原廃寺

（公財）京都市埋蔵文化財研究所 松吉祐希

1 檜原廃寺周辺の歴史

檜原廃寺は、古代の葛野郡大岡郷、現在の京都市西京区檜原内垣外町に所在する。

周辺には、旧石器・縄文時代の大枝遺跡や、弥生時代の下津林遺跡が存在する。古墳時代になると多くの古墳が築造された。古墳時代前期には、寺戸大塚古墳、妙見山古墳や天皇の杜古墳などの大型の前方後円墳が、後期には向日丘陵の山裾に群集墳が造られた。長岡京期や平安時代には、大枝丘陵に桓武天皇の母や夫人・皇子の墓が営まれた。近世になると山陰街道の宿場町として、檜原には本陣が置かれた。檜原は、山陰道と物集女街道（山陰街道と西国街道とを結ぶ）の通る古代からの交通の要衝であった。

2 これまでの主な発掘調査

1967 年〈第 1 次調査〉 八角形の瓦積基壇をもつ塔、中門および南面回廊、東・西築地を検出した。基壇の規模は一辺 5.07m、対辺の距離 12.27m で、高さ 1.17m が残存していた。出土瓦や心礎の形式、基壇外装から、7 世紀中頃白鳳期の寺院とされ、「檜原廃寺」と名付けられた。

1971 年 国の史跡となり、史跡公園として整備される。

1981 年〈第 2 次調査〉 推定東築地で調査が行われるも、古代の遺構は検出できず。後世の削平を受けていると考えられる。

1997 年〈第 3 次調査〉 北回廊（のちに築地と訂正）、掘立柱建物（建物 1～3）等を検出した。

1998 年〈第 4 次調査〉 基壇状遺構、掘立柱建物、井戸等を検出した。この基壇の規模は東西 14.1 m、南北 8 m 以上で、金堂の可能性が考えられる。

→これらの遺構は、いくつかの時期に分けられる。

I 期 創建期（飛鳥時代）・・・主要伽藍、北築地

II 期 再興期（奈良時代末期から平安時代初頭）・・・主要伽藍（金堂・塔の改修）、建物 2、北築地（改修）

III 期 終焉期（平安時代中期）・・・主要伽藍、建物 1、塀 2

3 檜原廃寺の特徴

①八角塔

日本では、檜原廃寺（7 世紀中頃）、西大寺（8 世紀後半）、法勝寺八角九重塔（1083 年）で、八角

塔の調査事例がある。なお現存する八角塔は、長野県上田市の安楽寺（13 世紀末頃）のみである。難波宮（7 世紀中頃）や鞠智城（7 世紀後半）で、八角建物の存在は知られるが、塔としては檜原廃寺の八角塔が 7 世紀代に造営された唯一であり、現在のところ最古の事例である。

朝鮮半島・高句麗では、土城里廃寺（4 世紀後半）、定陵寺址（5 世紀）、上五里廃寺・清岩里廃寺（5 世紀後半）等が知られる。基壇規模は明らかになっているが、柱の位置や心礎は不明である。

②伽藍配置

・四天王寺式説 最初の発掘調査当初から四天王寺式の伽藍配置が想定されていた。その後の調査で検出した基壇状遺構は金堂か。

・一塔三金堂式説 久世康博氏は、八角塔の源流、高句麗系とされた出土瓦、山背における渡来系の秦氏の影響力という点から、檜原廃寺が高句麗系の一塔三金堂式の伽藍配置であったと提示した。しかし、何らかの理由で達成できなかった、とする。

③出土瓦

・軒丸瓦 重弁八葉蓮華文軒丸瓦・複弁十葉蓮華文軒丸瓦。山背では檜原廃寺の他に、北白川廃寺・山崎廃寺・志水廃寺の 4 箇所为重弁八葉蓮華文軒丸瓦が出土する。北白川廃寺と同範瓦も確認されている。

・軒平瓦 素文軒平瓦・三重弧文軒平瓦。

④瓦積基壇

瓦積基壇は、百済で成立した瓦で基壇を化粧する基壇外装の手法の一つ。山背では北白川廃寺・大宅廃寺・志水廃寺等で検出される。

【参考・引用出典】

網伸也 2005「日本における瓦積基壇の成立と展開―畿内を中心として―」『日本考古学』第 20 号 日本考古学協会

佐藤興治 1967「檜原廃寺発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概要』京都府教育委員会

堀大輔 2010『飛鳥白鳳の甍～京都市の古代寺院～』京都市文化財ブックス第 24 集

久世康博 2004「檜原廃寺の再検討（上）」『研究紀要』第 9 号 （財）京都市埋蔵文化財研究所

久世康博 1998「II 檜原廃寺跡第 4 次調査」『京都市内遺跡発掘調査概報』平成 9 年度 京都市文化市民局

箱崎和久 2011「日本から見た韓半島の古代木塔址」『日韓文化財論集 II』奈良文化財研究所学報第 87 冊

林正憲・垣内拓郎「1 檜原廃寺の出土瓦」『古代瓦研究 V―重弁蓮華文軒丸瓦の展開― ―藤原宮式軒瓦の展開―』奈良文化財研究所

堀大輔「2 山背の重弁蓮華文軒丸瓦―檜原廃寺式を中心に―」『古代瓦研究 V―重弁蓮華文軒丸瓦の展開― ―藤原宮式軒瓦の展開―』奈良文化財研究所

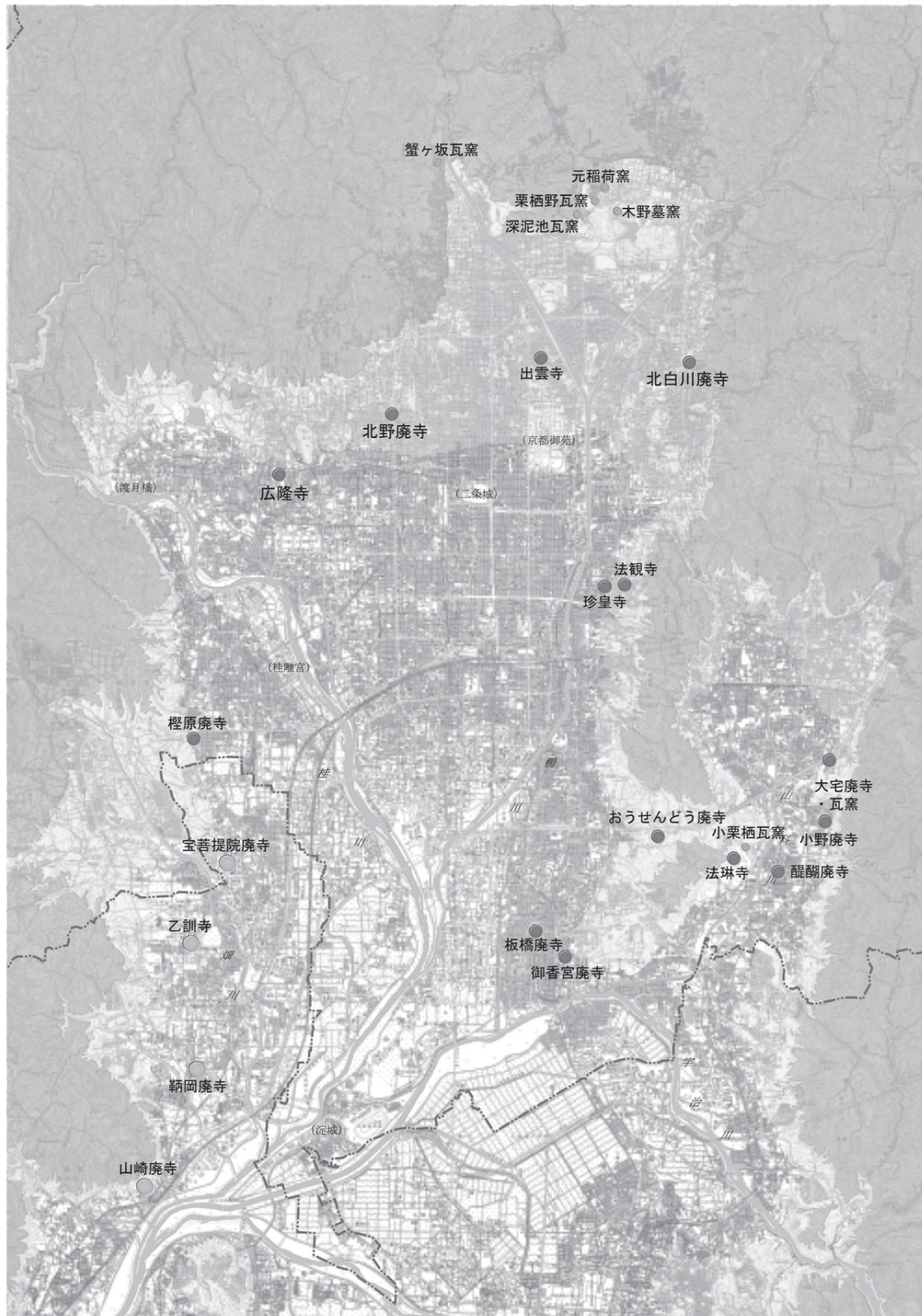


図1 飛鳥白鳳寺院位置図 (1 : 100,000)

(堀大輔『飛鳥白鳳の薨〜京都市の古代寺院〜』京都市文化財ブックス第24集 2010 一部改変)



図2 調査位置図

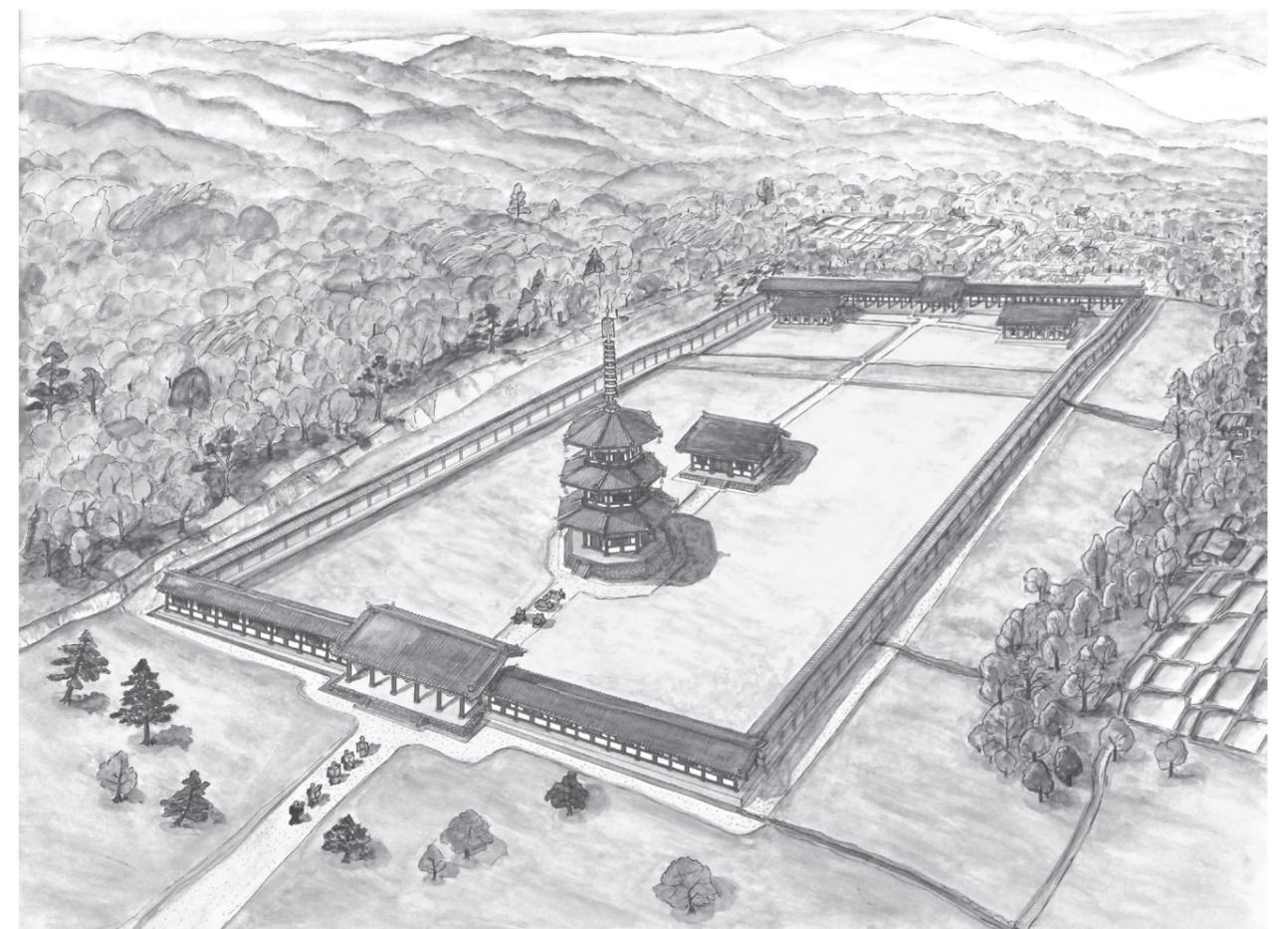


図3 櫻原廃寺イメージ (イラスト梶川敏夫氏)

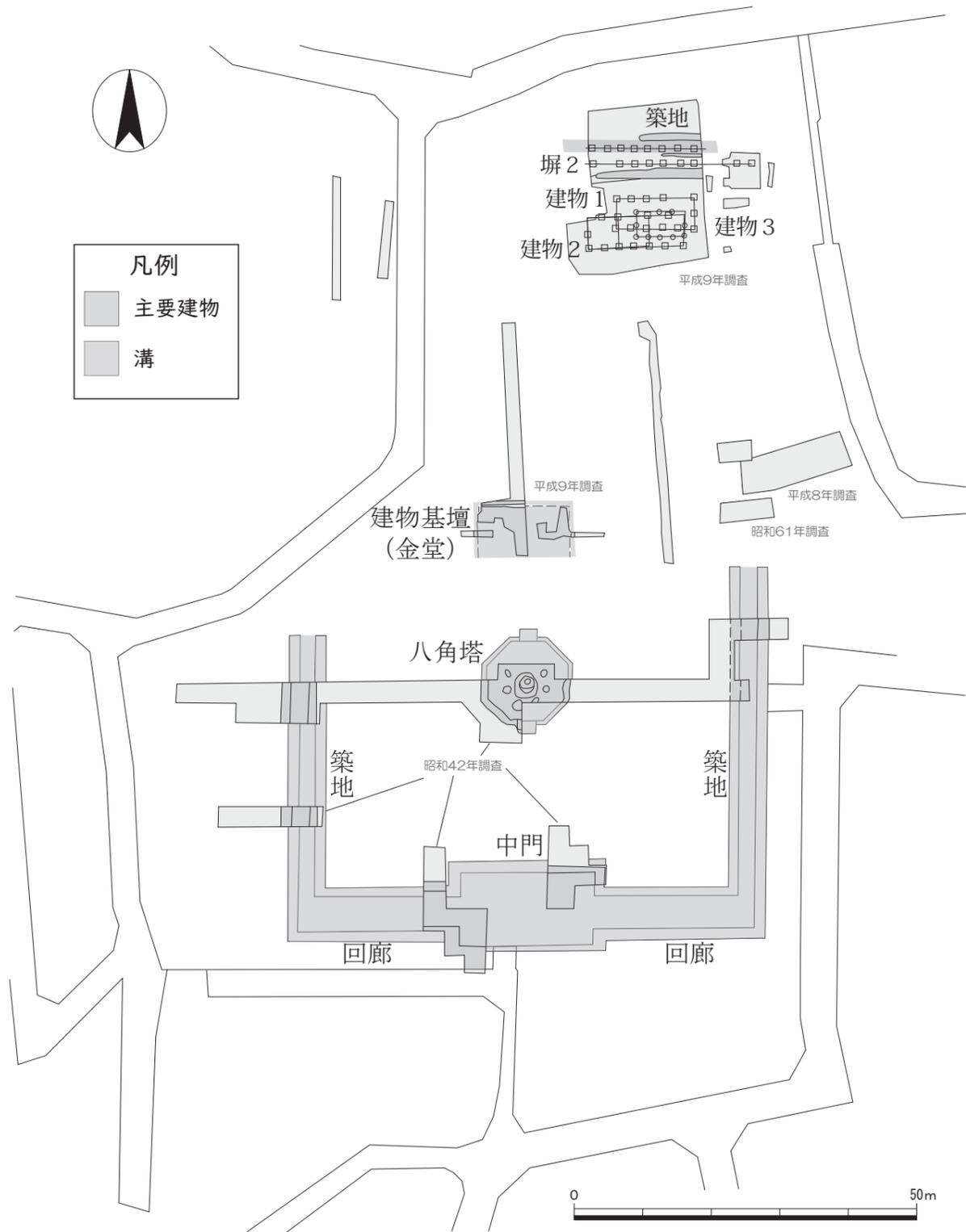


図4 主要遺構図



図5 塔検出状況（第1次調査）



図6 塔の心礎（第1次調査）

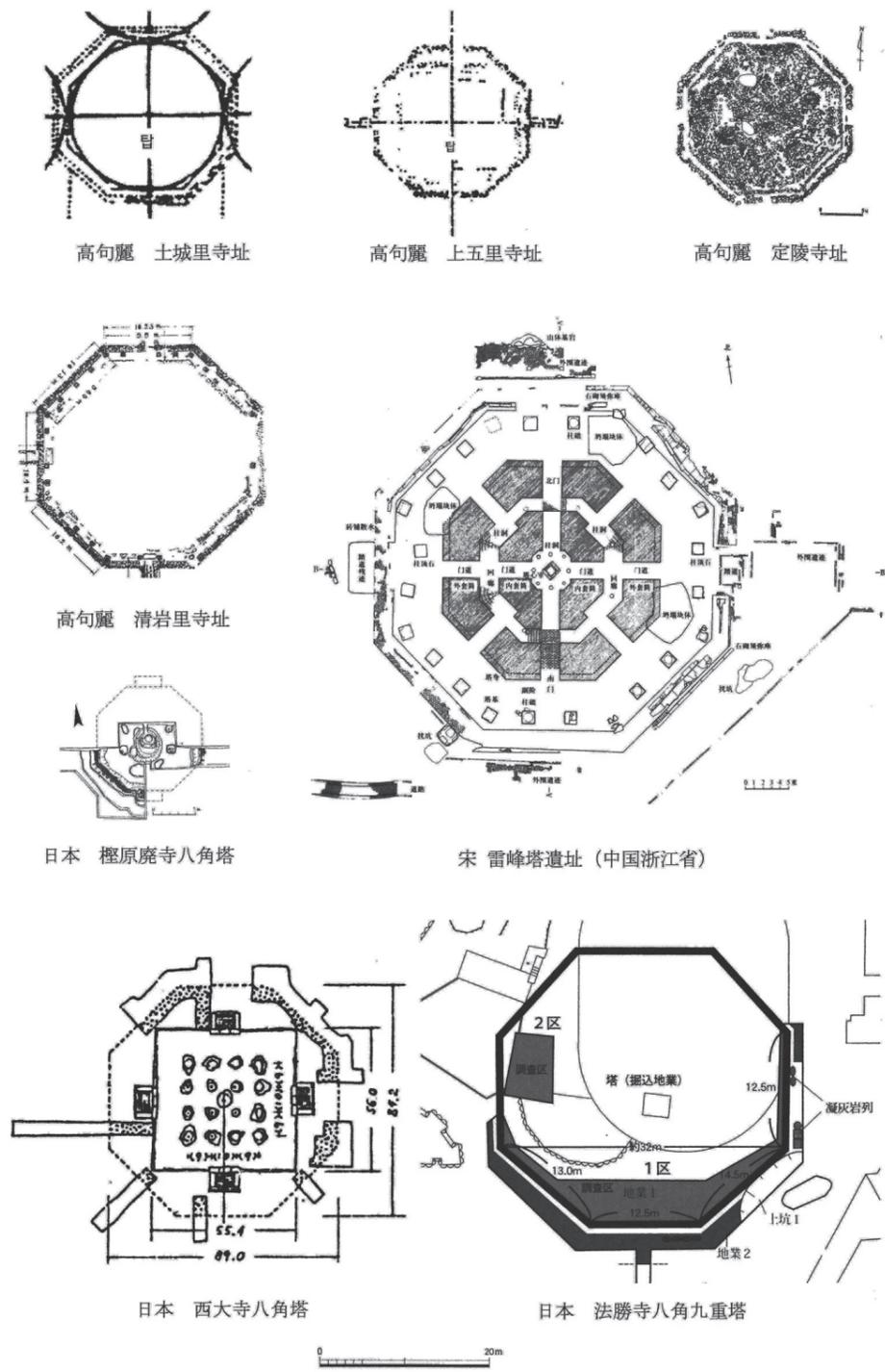
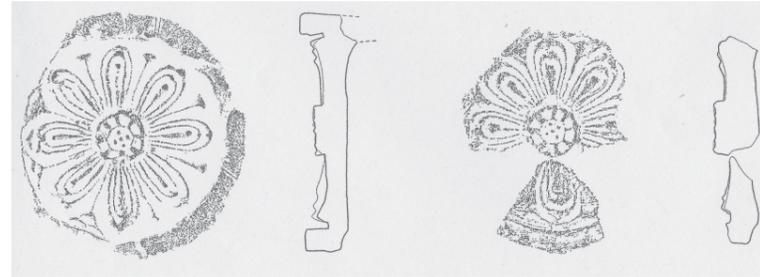


図7 東アジアの八角木塔の発掘遺構 (箱崎 2011 より転載)

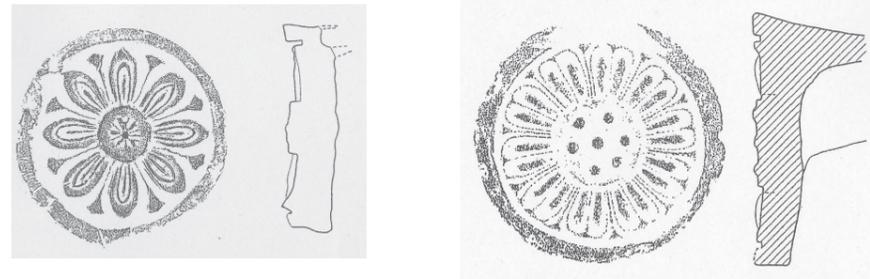
軒丸瓦 A類

B類

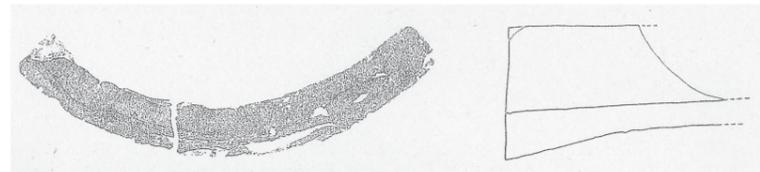


C類

D類

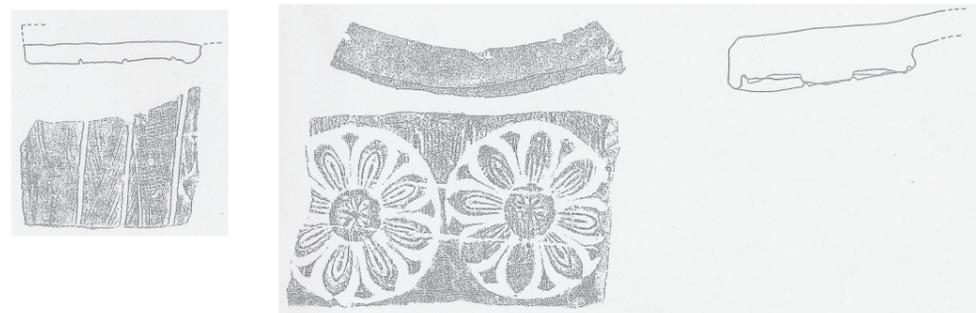


軒平瓦 A類



B2類

B3類



B1類

三重弧文軒平瓦

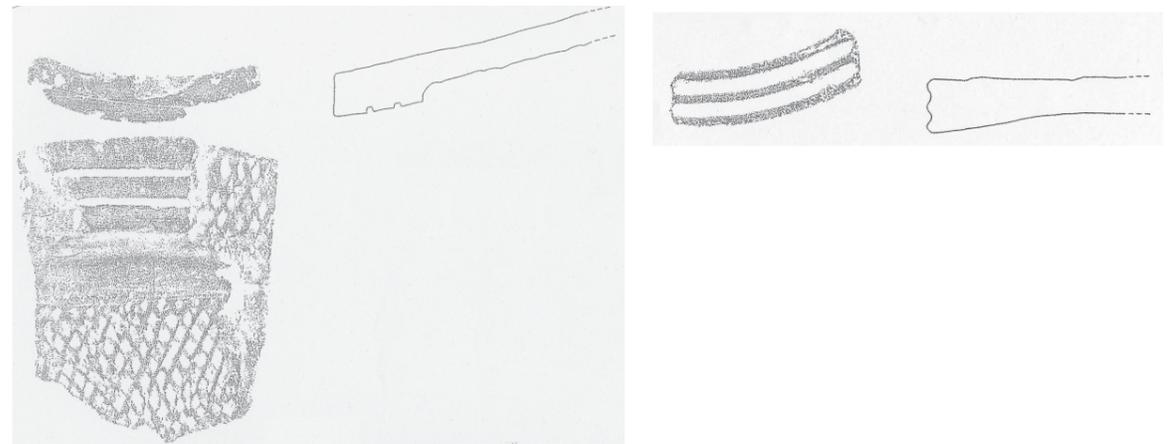


図8 極原廃寺出土瓦